

ルフレージュ LEFLAIVE

ピュリニー・モンラッシェ随一の造り手がドメヌ・ルフレージュ。全ブルゴーニュの白ワインにおいて最高の造り手といっても過言ではないはずだ。

ドメヌは20世紀初頭、ジョゼフ・ルフレージュが一族の畑を相続して設立し、その2人の息子ジョーとヴァンサン時代に評価を確立。

ジョーの死後はその息子であるオリヴィエが代わりを務め、90年になってヴァンサンとアンヌ・クロードが参画。オリヴィエが自身のネゴシアン業で多忙となったため、94年以降はアンヌ・クロード・ルフレージュが一人でドメヌの経営にあたっている。

ピュリニー・モンラッシェにおよそ25haものブドウ畑を所有する大ドメヌであり、その大部分をグラン・クリュとプルミエ・クリュが占めている。

プルミエ・クリュのクラヴォワヨンにおいては、クリマの総面積5.5ha中じつに4.7haを所有する半ば独占状態。グラン・クリュのシュヴァリエ・モンラッシェも7.4haのうち2haを所有し、1ドメヌの所有面積としては2番目に大きい。

このシュヴァリエ・モンラッシェの評価があまりに高いため、「ルフレージュにモンラッシェは必要なし」と言われていたが、91年、ついにモンラッシェを入手。面積は2ウーヴレ＝約0.08haに過ぎず、毎年1樽造るのがやっとの希少さである。

またルフレージュはピュリニー・モンラッシェとムルソーに挟まれたブラニー村にも畑を所有し、ドメヌ唯一の赤ワインを醸造していたが、1995年に一部をシャルドネに植え替え、2000年にムルソー・プルミエ・クリュ・スー・ル・ド・ダヌとしてリリース。04年に残りの区画もシャルドネに植え替えたため、現在、ドメヌのラインナップに赤ワインはない。

さらに2004年、南のマコネ地区に9.33haの畑を取得。同じ年からマコン・ヴェルゼとして醸造を始めた。入手の難しいルフレージュのラインナップの中でも比較的生産量が多く、価格も手頃なため人気のアイテムとなっている。

ルフレージュで特筆すべきことは、ビオディナミによるブドウ栽培である。

80年代末、ブドウ畑の状態に疑問を抱いたアンヌ・クロードは、地質学の専門家であるクロード・ブルギニヨンの講義を聞いたのがきっかけで、ビオディナミに傾倒。故フランソワ・ブーシェの指導のもと、天体の運行に従って農作業を行い、自然界の物質から作られた特種な調合物で土壌の活性化を図る、ビオディナミ農法を実践する。

ワインの醸造は、歴代のレジスール(醸造長)が指揮をとる。フランソワ・ヴィロ、その息子のジャン・ヴィロと続き、1989年にはムルソーの造り手として高い評価を得るピエール・モレが後を継いだ。彼はおよそ20年間にわたり、ルフレージュのワインの品質をさらなる高みまで向上させた後、2008年にそのバトン若手のエリック・レミーへ渡してドメヌを去った。

2009年からは「ルフレージュ・エ・アソシエ」の名前のもと、買いブドウによるワインを少量生産しているが、ネゴスといってもブドウ栽培からルフレージュのスタッフが携わり、栽培方法もビオディナミがとられている。なお、ルフレージュ・エ・アソシエのワインには赤ワインもラインナップされる。

さらにアンヌ・クロードはロワールの「クロード・ネル」を買収。アンジューのほか、カベルネ・ソーヴィニヨン、カベルネ・フラン、グロローからなるヴァンド・ペイやヴァンド・フランスを手がけている。

ルフレージュのワインはいずれのクリマもテロワールをありのまま表現したもので、過熟感や過剰な樽香とは無縁なスタイルをとる。

ムルソー・スー・ル・ド・ダヌやピュリニー・モンラッシェでもクラヴォワヨンのように、比較的若いうちから楽しめるクリマもあるが、ピュセルやシュヴァリエ・モンラッシェは鋼のように強靱なミネラルが落ち着くまでに長い年月を要す。しかしながら待てば待った分だけ、いざ開けた時の感動は大きく、世のルフレージュ・マニアを虜にして離さないのである。

モンラッシェ グラン クリュ

Montrachet Grand Cru

ルフレージュが念願のモンラッシェを入手したのは1991年。興味深いことに、ピュリニーの造り手でピュリニー側にモンラッシェの畑を所有するドメヌはなく、ルフレージュの区画もシャサーニュ側。ジャック・ブリューール、フォンテーヌ・ガニャール、DRGに三方を囲まれている。わずか2ウーヴレ(0.0821ha)の面積から最大でも1樽分のワインしか造ることができない。モンラッシェの中でも一際希少かつ偉大な存在。

シュヴァリエ モンラッシェ グラン クリュ

Chevalier-Montrachet Grand Cru

シュヴァリエ・モンラッシェの総面積7.6haのうち約2haを所有するルフレージュは、ブシャール・ペール・エ・フィスに次ぐ大地主。モンラッシェを91年に手に入れるまで、ドメヌの旗艦だったが、今なお、その実力は旗艦と呼ぶにふさわしい。パワフルさでは劣るものの、モンラッシェよりも一層ミネラルが強く、エレガントなグラン・クリュ。

バタール モンラッシェ グラン クリュ

Batard-Montrachet Grand Cru

ルフレージュはピュリニーとシャサーニュの双方にバタールを所有。1.91haはこのグラン・クリュ最大の所有面積であり、他には1haを越える所有者すらいない。表土は厚く、そのためシュヴァリエのエレガンスに対して、バタールはリッチでボリュームが大きい。

ピアンヴニュ バタール モンラッシェ グラン クリュ

Bienvenues-Batard-Montrachet Grand Cru

バタールの北東の角に位置する3.7haの畑がピアンヴニュ・バタール。ルフレージュはここにも最大の1.15haを所有する。バタールよりも樹齢は古く、ビオディナミの導入によって、樹のバイタリティが増したとアンヌ・クロードはいう。ワインはバタールと比べてソフトでしなやか。香りはデリケート。



ピュリニー モンラッシェ プルミエ クリュ クラヴォワヨン

Puligny-Montrachet 1er Cru Clavoillon

クラヴォワイオンは、総面積5.6haのうち85%に相当する4.8haをルフレーヴが所有。カジ・モノポールともいえる1級畑。隣はピュセル、上はフォラティエールという絶好の場所にあるが、表土はやや厚めでこの2つの1級畑と比べるとリッチな性格を帯びる。

ピュリニー モンラッシェ プルミエ クリュ レ ピュセル

Puligny-Montrachet 1er Cru Les Pucelles

バタールとピアンヴェニュー・バタールに接するピュセルはほとんどグラン・クリュに匹敵する1級畑。6.76haのうちルフレーヴがほぼ半分の面積を占める。バタールに隣接しながらリッチネスやパワフルさとは無縁のエレガンスをもち、きれいなミネラル感を備えている。

ピュリニー モンラッシェ プルミエ クリュ レ フォラティエール

Puligny-Montrachet 1er Cru Les Folatieres

ピュリニーの1級畑として最大のフォラティエールは、クラヴォワイオンの上に位置し、その標高はモンラッシェ、シュヴァリエ・モンラッシェにほぼ等しい。ルフレーヴが所有する区画はシュヴァリエとほぼ同じ等高線にあり、ミネラルのしっかりとしたスタイル。

ルフレーヴ

LEFLAIVE

2016/5/5更新

税込価格 在庫数

ピュリニー・モンラッシェ 1ER・レ・フォラティエール 2004

¥19,800 2

ピュリニー・モンラッシェ 1ER・レ・ピュセル 2004

¥21,600 2